

植民地時代の韓国の新聞に表れた京都¹⁾

——『東亜日報』『朝鮮日報』の文化（文学）記事を中心に——

鄭 滢

I 植民地時代の韓国における京都表象

1. 始めに

近代、特に明治維新以後、日本帝国が国民国家を志向するとともに帝国の首都としての東京の意味と比重がさらに強調され始める一方、千年の歴史文化都市としての京都の文化的な位相の内実と変化、そしてその意味を明らかにする作業、すなわち歴史都市京都、文明・文化の基底としての京都の諸様相に関して、さまざまな領域から多様な視点と方法で、京都学研究成果がなされてきていることは周知の事実である。

このように多様な京都研究の延長線上で、植民地時代において、朝鮮（韓国）で京都はどのような位相として迫って来るか、当時、植民地の知識人にとって京都は、東京・大阪のような大都市と比較してどんな意味で迫って来、京都という歴史・文化的空間を彼らはどのように経験し感じたのか、そして日本国内での京都の位相とはどのような違いがあるのかという、植民地朝鮮における京都表象という主題を、主として文化（文学）の領域で考察してみようというのが、今回の調査報告の出発点である。

ところで、植民地時代朝鮮（韓国）の文学作品に出てくる京都という空間の例が、東京などに比べて多くないだろうと予想されることから、同時代の文学作品に出てくる京都表象という主題は、その用例を探すことが難しく容易に接近し難い主題なのである。

したがって、この主題に接近する一つの方法として、植民地時代の重要新聞だった『東亜日報²⁾』、『朝鮮日報³⁾』という二つの新聞に登場する京都に関する文化関連記

1) この原稿は2007年2月17日、仏教大学総合研究所「京都・近代文学」班研究会において、ゲストスピーカーとして「植民地期京都（表象）記事に関する内容報告—『東亜日報』『朝鮮日報』の文学（文化）記事を中心に—」という題目で発表した内容を修正・補完したものである。この場をお借りして、発表の機会を与えてくださった仏教大学総合研究所「京都・近代文学」班研究会および、責任者である三谷憲正教授に謝意を表したい。

事を、東京・大阪の記事と比較する作業を通して、植民地時代の韓国の京都表象の一端を明らかにしてみようと思う。

二十余年間の『東亜日報』『朝鮮日報』に出てくる京都・大阪・東京の記事は膨大な量であり、それらを資料化し分析する調査期間が十分ではなかったため、本稿では、いわゆる京都表象を考察する前段階として、東京と大阪との比較を通して、京都に関する記事の内容を紹介し、それらを単純分析した作業結果の報告が中心となっている。そして、そのような作業を通して文学（文化）領域に現れた興味深い課題のいくつかを結論部分で示し、持続的に京都表象を考察していくための端緒としようと思う。

2. 韓日関係史として見た京都と韓国

韓日関係史の長い流れのなかでの韓国と京都との多様な接点を概観することが本稿の目的ではないので、ここでは主として近代前後の京都との重要事項について概観してみる⁴⁾。

文禄慶長の役、韓国では壬辰倭乱と呼ぶ豊臣秀吉の朝鮮侵略戦争（1592年～1598年）が、以後の韓国人の日本観と日本表象を決定的に変化させた事変であったことは周知の事実である。ところで、朝鮮侵略のための最終集結地は九州最北端に位置する名護屋城であったが、実際にはこの戦争の発源地が秀吉の居住する京都であったことは、韓国人にはほとんど知られておらず、また、大きな意味をもつことはないのである。1592年3月、豊臣秀吉の命によって日本全国から結集した主な大名の軍隊の集

2) 韓国の二大日刊新聞の一つ。一九一九年の三・一独立運動直後から発刊が論議され、一九二〇年四月一日に創刊号が発刊された。発起人代表は金性洙（キム・ソンズ）。三・一独立運動の精神を受けつぐ民族代表紙という自覚から出発した。四度の無期停刊を経て一九四〇年八月に日本当局によって強制廃刊された。韓国人は『東亜日報』と関連して日章旗抹殺事件をよく思い浮かべる。

日章旗抹殺事件：『東亜日報』が1936年のベルリンオリンピックマラソン競技に優勝した孫基禎（ソン・ギジョン）選手を写した朝日スポーツ新聞の写真を1936年8月25日付新聞に転載した際、ユニフォームの胸に描かれていた日章旗を巧妙に抹殺して載せたが、そのことが問題化して無期停刊に処せられた事件。

参考）『1920年—1945年 東亜日報社史』巻一（東亜日報社、1975年4月1日）

3) 韓国の二大日刊新聞の一つ。現存する新聞のなかでもっとも古い歴史をもっている。三・一独立運動以後、日本総督府が標榜した文化政治の影響で、『東亜日報』『時事新聞』とともに総督府から許可を得た。1940年8月に日本当局によって強制廃刊された。

参考）『朝鮮日報 80年史』上・下（朝鮮日報社、2000年3月5日）

4) 近代前後の韓日関係史において、京都の場合、日本の首都東京と経済都市大阪と比べて、交流の接点として登場する内容は主として文化の領域から現れる可能性が高いため、相対的にその事項が非常に少ないだろうという予想は、当然のことながらこの概観の前提となっている。

合場所が京都だったが、やはり豊臣秀吉が主導した侵略戦争の歴史的弊害が優先的意味をもつほかなく、京都という地域的事項は韓国人にとっては単に日本の国内問題程度の意味しかもたない。

それ以後も、一般的な韓国人にとって京都という都市がもつイメージは、江戸－東京という近世期以後の政治、経済の中心都市と比べると、過去の日本文化の伝統を保存している歴史都市程度の表象で存続してきたことはたやすく推察することができる。それにもかかわらず、これまでの先行研究によれば、近代期の京都と韓国との接点には意外と多くの歴史的事実と交流があったことを知ることができる⁵⁾。これについていくつかの重要な史跡と事項を年代順に示すと以下の通りである。

まず、韓国併合と支配の遺跡としては、明治天皇陵と乃木神社、韓国併合記念碑などをあげることができる。韓国併合以前、大阪・京都一円に相当数の韓国人が来ていたが、とくに6000名の労働者が動員された陵墓造成工事に朝鮮人労働者も数十名含まれていたという。このように韓国併合直前から朝鮮人労働者が増加し始め、1920年に1000名程度となったが、大部分は出稼ぎだった。繊維産業、土木建設、商業、交通業、農業、公務自由業、その他無職などもいたが、土木建設は工事現場の現場労働者であり、繊維産業は西陣の織工だった。京都の朝鮮人は1927年に1万1000人、1933年に3万2000人、1937年に5万人、1941年に8万人と急増し、彼らの大部分は河川敷や郊外に集団で居住し、以後スラム化していった。朝鮮人集団居住地としては京都の東九条が代表的であり、賤民の扱いを受け、豚（東）九条と蔑視を受けたりもした。また1908年から1912年にかけて行われた第2疎水工事と比叡山ケーブル・ロープウェー工事、阪急電鉄工事、宇治火薬製造所、宇治水力発電所、国鉄山陰線、第3海軍火薬倉製剤工場などに朝鮮人労働者が動員された。これを契機として労働運動が起こり始め、朝鮮人労働総同盟が結成され、ストライキなどがあったが、その背後に朝鮮人留学生がそれを援護したことはよく知られた事実である。

5) 鄭在貞「京都が語る韓日関係2000年（近現代編）」（『歴史批評』2006年冬号）と、鄭在貞『京都から見た韓日通史』（ヒョヒョン出版、2007年）はもっとも最近の研究成果だといえる。とくに『京都から見た韓日通史』の序文において鄭在貞は、京都の都市歴史とそれにかかわる韓日関係史の核心を次のように整理している。まずは、歴史から知恵を受け先端都市として生まれ変わってきた創新京都、二番目は古都文明としての京都、三番目は武家社会における京都の変化、四番目は壬辰倭乱と京都、五番目は交隣交易すなわち朝日外交と東アジア交易における京都の役割、六番目は維新戦争すなわち明治維新の舞台としての京都、七番目は併呑哀憐、朝鮮の植民地化と京都、八番目は京都と韓国人留学生と労働者たちの関連様相、九番目は敗戦後の相生共栄する京都と京都の韓国人などである。このような項目は韓国近代史を専攻する研究者の現在の視覚を通して提示された京都をめぐる韓日通史の核心だといえるが、近代以後の韓国人にこのような問題意識と視覚が共有されていたと見ることは難しい。

1910年代には毎日新報社、東洋拓殖株式会社、朝鮮総督府などが朝鮮全土で朝鮮人を多様な形態で募集し日本に派遣した。貴族観光団、全北観光団、東拓視察団、儒林視察団、教育視察団、仏教視察団、蚕業視察団などがそれであり、植民地支配の同調者ないしは協力者をつくるための作業の一環であったとみることができる。1925年にはソウル（京城）の中心部である南山に天照大神と明治天皇を祭る朝鮮神宮が完成し、1934年には朝鮮神宮から遠くない所に乃木神社が建立された。また、京都の三宅八幡宮にある韓国合併奉告祭碑と、新羅明神を祭る大雲寺、赤山明神を祭る赤山禅院などに京都と近代期韓国との接点を見いだすことができる⁶⁾。

このように近代における歴史都市京都と韓国との接点には、先に指摘した明治維新の主役たちのいくつかの遺跡と、韓国併合直後の時期に関西地方での韓国人労働者の就職流入などがあり、次に、新聞資料分析に現れた韓国人留学生の京都留学がある。当時、韓国人労働者自身が京都に関して作成した記録や文学作品の存在を期待することは難しく、したがってこの報告の主要内容は、このような韓国人留学生の京都に関連する記事だと言える。

-
- 6) 日本における先行研究には以下のようなものがある。（朝鮮史研究会ホームページ参照）
 鈴木博「京都における在日朝鮮人労働者の闘い—1920年代」（『在日朝鮮人史研究』8, 1981年6月）
 浅田朋子「京都府協和会小史」（『在日朝鮮人史研究』27, 1997年9月）
 水野直樹「尹東柱と京都在住朝鮮人」（尹東柱詩碑建立委員会編『星うたう詩人—尹東柱の詩と研究』, 三五館, 1997年2月）
 林茂「京都時代の尹東柱—南炳憲さんに聞く」（『在日朝鮮人史研究』28, 1998年12月）
 松田利彦「曹寧柱と京都における東亞連盟運動」（『世界人権問題研究センター研究紀要』3, 1998年3月）
 浅田朋子「1930年代における京都在住朝鮮人の生活状況と京都朝鮮幼稚園—京都向上会館前史」（『在日朝鮮人史研究』30, 2000年10月）
 許光茂「戦前京都の都市下層社会と朝鮮人の流入—朝鮮人の部落への流入がもつ歴史的意義をめぐって」（『コリアンマイノリティ研究』4, 2000年12月）
 水野直樹「戦前京都在住の韓国人の生活」（『民族文化教育研究』3, 2000年7月）
 浅田朋子「京都向上館について」（『在日朝鮮人史研究』31, 2001年10月）
 宇野豊「京都東九条における朝鮮人の集住過程（1）—戦前を中心に」（『世界人権問題研究センター研究紀要』6, 2001年3月）
 高野昭雄「戦前期京都市における朝鮮人の流入—就業状況を中心に」（『在日朝鮮人史研究』34, 2004年10月）
 高野昭雄「戦前期京都市郊外吉祥院における朝鮮人の流入過程」（『在日朝鮮人史研究』35, 2005年10月）

Ⅱ 『東亜日報』『朝鮮日報』記事（東京・大阪・京都）の資料データベース化および分類

1. 資料データベース作業

東亜日報社、朝鮮日報社の記事データベースの見出し語索引で、東京、大阪、京都が登場するすべての記事を検索・抽出してエクセルに入力した後、エクセルの機能を活用してデータベース化を試みた。二つの新聞の発行期間と記事件数は以下の通りである。

期間：『東亜日報』1920.5.13～1940.7.09

『朝鮮日報』1920.8.07～1940.7.15

京都：東亜（総 621 件）	朝鮮（総 470 件）	： 2,803 件
大阪：東亜（総 3,108 件）	朝鮮（総 1,988 件）	： 5,096 件
東京：東亜（総 37,250 件）のみ資料処理 ⁷⁾		： 37,250 件
		総 45,089 件

記事題目をエクセルファイルに入力した件数は総 45,089 件に達し、現在作業中である『朝鮮日報』の東京資料入力が完了すると総 7 万件を超えるものと予想される。

完成した京都のエクセル資料を検討した結果、資料入力のエラー件数（例：京都の韓国語発音であるキョンドと、同音語である傾倒などを京都の記事に含めたエラーなど）が 10 件未満であり、資料の誤差範囲は 0.3 パーセント以下だと判断される。

『東亜日報』の資料索引は発行日、面、段、題目、主題語となっており、『朝鮮日報』の場合は発行日、面、段、題目があり、主題語はない。

資料例⁸⁾

『東亜日報』

一連番号 5，発行日 1920.5.19.，面 3，段 3，題目：在京都日本朝鮮労働共済会臨時総会，15 日に盛大に講演会まで開き，主題語：朝鮮労働共済会

7) 今回の報告では、東京が登場する記事が膨大なため『東亜日報』の資料のみを処理し、『朝鮮日報』の資料処理は現在作業中であり、今回の報告では除外した。

8) 資料例の題目、主題語および記事内容など、すべてが韓国語で書かれているので、筆者が日本語に直訳して示した。

一連番号 59, 発行日 1922.4.18., 面 3, 段 3, 題目: 京都で二泊王世子殿下旅程一部
変更, 主題語: 李垠

一連番号 87, 発行日 1922.11.6., 面 3, 段 6, 題目: 京都で日本人と朝鮮人が連合し
て組織した社会主義秘密結社団, 検察は活動開始, 主題語: 社会主義運動—日本

『朝鮮日報』

一連番号 3, 題目: 荒木寅三郎総長再入京, 京都帝大早朝, 1920.12

2. 資料分類

分類方式は大きく a) 単一分類と b) 複数分類の二つとした。

a) 単一分類は, 記事の内容を政治, 経済, 事件, 文化に分け, 単純にこの内容に含
めることのできる内容は単一分類統計記事として選んだ⁹⁾。

政治: 政府関連, 外交, 思想関連, 朝鮮独立関連, 天皇関連など

経済: 労働関連, 建設関連, 商業関連など

事件: 災害, 逮捕および検挙, 負傷および死亡事件など

文化: 教育関連, 社会問題, スポーツ, 芸能のような政治・経済・事件のどれに
も属さない内容

b) 複数分類は, 記事の内容を政治, 経済, 事件, 文化の 4 領域中から 2 項目以上含
んでいる記事内容を対象とした。

複数分類の例: 経済/文化, 政治/経済, 政治/文化, 事件/文化, 事件/政治,
事件/経済, 政治/経済/文化, 事件/政治/文化, 事件/政治/経済, 事件/経
済/文化の 10 領域

単一分類+複数分類=100%

3. 単一分類, 複数分類による 3 都市の 4 領域構成比率

1) 京都

『東亜日報』

単一分類 (621 件中 492 件, 79.3%)

政治 (135 件, 21.7%), 経済 (20 件, 3.2%), 事件 (61 件, 9.8%), 文化 (276

9) 政治, 経済, 文化, 事件の 4 項目で単純分類をした理由は, 新聞という媒体の特性上, 政
治と経済記事が優先的項目だと判断し, それ以外の分野は無数の小領域を包括して文化と設
定した。そして事件という形式の表題語も頻出しているため, 別途の項目として扱った。

件, 44.4%)

複数分類 (621 件中 129 件, 20.7%)

このうち文化領域を含む記事 (政治 / 文化, 事件 / 文化, 経済 / 文化, 事件 / 政治 / 文化, 政治 / 経済 / 文化, 事件 / 経済 / 文化の 6 領域) は総 157 件中 100 件で, 77.5%

単一分類, 複数分類の文化記事は総 376 件で, 60.5%

『朝鮮日報』

単一分類 (470 件中 340 件, 72.3%)

政治 (68 件, 14.5%), 経済 (24 件, 5.1%), 事件 (61 件, 13.2%), 文化 (186 件, 39.6%)

複数分類 (470 件中 130 件, 27.7%)

このうち文化領域を含む記事 (政治 / 文化, 事件 / 文化, 経済 / 文化, 事件 / 政治 / 文化, 政治 / 経済 / 文化, 事件 / 経済 / 文化の 6 領域) は総 130 件中 105 件で, 80.7%

単一分類, 複数分類の文化記事は総 291 件で, 61.9%

『東亜日報』『朝鮮日報』の文化総件数は 667 件で, 61.1%となる。

以上の数値からわかるように, 京都関連の記事では文化項目がもっとも高い 61.1% であり, これは文化都市京都としての表象がよく表れているとみることができる。一方, 京都の記事内容分析はⅢ. 京都の記事内容の細部分析で具体的に扱うこととする。

2) 大阪

『東亜日報』

単一分類 (3,108 件中 2,276 件, 73.2%)

政治 (263 件, 8.5%), 経済 (1,119 件, 36%), 事件 (249 件, 8%), 文化 (645 件, 20.8%)

複数分類 (3,108 件中 832 件, 27.7%)

このうち文化領域を含む記事 (政治 / 文化, 事件 / 文化, 経済 / 文化, 事件 / 政治 / 文化, 政治 / 経済 / 文化, 事件 / 経済 / 文化の 6 領域) は総 832 件中 504 件で, 60.5%

単一分類、複数分類の文化記事は総 1,149 件で、40.0%

『朝鮮日報』

単一分類 (1,988 件中 1,309 件, 65.9%)

政治 (113 件, 5.7%), 経済 (453 件, 22.8%), 事件 (232 件, 11.7%), 文化 (511 件, 25.7%)

複数分類 (1,988 件中 679 件, 34.1%)

このうち文化領域を含む記事 (政治/文化, 事件/文化, 経済/文化, 事件/政治/文化, 政治/経済/文化, 事件/経済/文化の 6 領域) は総 679 件中 504 件で, 74.2%

単一分類、複数分類の文化記事は総 1,015 件で、51.1%

『東亜日報』『朝鮮日報』の文化総件数は 2,164 件で、42.5%となる。

以上からわかるように、両新聞の他分野に比べて経済分野の数値が単一分類 (73.3%中 36%, 65.9%中 22.8%) と複数分類 (26.7%中 16.9%, 34.1%中 19.5%)¹⁰⁾ ですべてもっとも高く表れていて、ある程度予想可能だったことではあるが、大阪の経済都市の性格がよく表れていることがわかる。

3) 東京

『東亜日報』

単一分類 (37,250 件中 30,148 件, 80.9%)

政治 (16,682 件, 44.8%), 経済 (5,142 件, 13.8%), 事件 (926 件, 2.5%), 文化 (7,398 件, 19.9%)

複数分類 (37,250 件中 7,102 件, 19.1%)

このうち文化領域を含む記事 (政治/文化, 事件/文化, 経済/文化, 事件/政治/文化, 政治/経済/文化, 事件/経済/文化の 6 領域) は総 7,102 件中 2,503 件で, 35.2%

単一分類、複数分類の文化記事は総 9,901 件で、26.6% (『東亜日報』のみ)

東京の場合は、政治的領域の記事 (単一分類 81%中 44.8%, 複数分類 19%中 16.53%) がもっとも高い比率を示しているが、これは帝国、すなわち国民国家の首都という都市の性格が現れているのであり、当然予想可能な結果である。

10) 複数分類の%は経済が含まれている複数項目をすべて合わせた数値である。

『東亜日報』『朝鮮日報』の大阪関連記事分類の数値化

東亜日報					朝鮮日報				
分類		出現数 (件)	百分率 (%)	約 73.3	分類		出現数 (件)	百分率 (%)	約 65.9
単 一 分 類	経済	1,119	36		単 一 分 類	文化	511	25.7	
	文化	645	20.8			経済	453	22.8	
	政治	263	8.5			事件	232	11.7	
	事件	249	8			政治	113	5.7	
複 数 分 類	経済 / 文化	284	9.1	約 26.7	複 数 分 類	経済 / 文化	200	10.1	約 34.1
	政治 / 経済	182	5.8			政治 / 文化	159	8.0	
	政治 / 文化	122	3.9			事件 / 文化	83	4.2	
	事件 / 文化	118	3.8			政治 / 経済	78	3.9	
	事件 / 政治	65	2.1			事件 / 政治	47	2.4	
	事件 / 経済	23	0.7			事件 / 経済	37	1.9	
	政治 / 経済 / 文化	14	0.5			政治 / 経済 / 文化	28	1.4	
	事件 / 政治 / 文化	11	0.4			事件 / 政治 / 文化	19	0.9	
	事件 / 政治 / 経済	9	0.3			事件 / 経済 / 文化	15	0.7	
	事件 / 経済 / 文化	4	0.1			事件 / 政治 / 経済	13	0.6	
		計 3,108	計 100				計 1,988	計 100	

『東亜日報』の東京関連記事分類の数値化

分類 \ 数値		出現数 (件)	百分率 (%)	
単 一 分 類	政治	16,682	44.8	約 81
	文化	7,398	19.9	
	経済	5,142	13.8	
	事件	926	2.5	
複 数 分 類	政治 / 経済	4,138	11.1	約 19
	政治 / 文化	1,477	4.0	
	経済 / 文化	652	1.8	
	事件 / 政治	426	1.1	
	事件 / 文化	230	0.6	
	政治 / 経済 / 文化	86	0.2	
	事件 / 経済	35	0.1	
	事件 / 政治 / 文化	33	0.1	
	事件 / 政治 / 経済	13	0.03	
	事件 / 経済 / 文化	12	0.03	
		計 37,250	計 100	

Ⅲ. 京都の記事内容

1. 単一分類の内容

1-1. 項目内容

政治：政界、政府、天皇、外交、思想、独立運動、朝鮮王家

経済：商業、労働、建設

文化：教育、文学、スポーツ、社会動静、芸能、宗教、社会問題

事件：特定の細部項目はない

『東亜日報』『朝鮮日報』の京都記事についての単一分類比較

新聞社 分類（単一）		東亜日報 (全体 621 件) (1920.5.13 ~ 1940.7.09)		朝鮮日報（全体 470 件） (1920.8.07 ~ 1940.7.15)			
政治 (135 件) 約 21.7%	政界 / 政府	67	約 49.6%	政治 (68 件) 約 14.5%	政界 / 政府	37	約 54.4%
	天皇	34	約 25.2%		天皇	17	約 25%
	外交	15	約 11.1%		独立運動	3	約 11.8%
	思想	8	約 5.9%		外交	2	約 4.4%
	独立運動	7	約 5.2%		思想	8	約 2.9%
	朝鮮王家	4	約 3%		朝鮮王家	1	約 1.5%
		計 135	計 100%			計 68	計 100%
経済 (20 件) 約 3.2%	商業	11	約 55%	経済 (24 件) 約 5.1%	労働	21	約 87.5%
	労働	9	約 45%		建設	2	約 8.3%
	建設	0	0%		商業	1	約 4.2%
		計 20	計 100%			計 24	計 100%
文化 (276 件) 約 44.4%	教育	93	約 33.7%	文化 (186 件) 約 39.6%	社会動静	78	約 41.9%
	教育 / 文学	2	約 0.7%		教育	45	約 24.2%
	スポーツ	84	約 30.4%		教育 / 文学	2	約 1.1%
	社会動静	67	約 24.3%		スポーツ	34	約 18.3%
	芸能	11	約 4%		芸能	11	約 5.9%
	宗教	8	約 2.9%		社会問題	10	約 5.4%
	社会問題	6	約 2.2%		宗教	4	約 2.1%
	文学	5	約 1.8%		文学	2	約 1.1%
		計 276	計 100%			計 186	計 100%
事件 (61 件) 約 9.8%		61	計 100%	事件 (62 件) 約 13.2%		62	計 100%
計 492/621 約 79.3%				計 340/470 約 72.3%			

1-2. 単一分類項目内容の詳細

政治項目

『東亜日報』135 件

経済/政府 67 件, 49.6% 天皇 34 件, 25.2% 外交 15 件, 11.1% 思想 8 件, 5.9%
独立運動 7 件, 5.2% 朝鮮王家 4 件, 3%

『朝鮮日報』68 件

経済/政府 37 件, 54.4% 天皇 17 件, 25% 外交 2 件, 4.4% 思想 8 件, 2.9%
独立運動 3 件, 11.8% 朝鮮王家 1 件, 1.5%

『東亜日報』『朝鮮日報』両新聞ともに天皇, 思想, 独立運動, 朝鮮王家に関する記事が多い。

経済項目

『東亜日報』20 件

商業 11 件, 55% 労働 9 件 45%

『朝鮮日報』24 件

労働 21 件, 87.5% 建設 2 件, 8.3% 商業 1 件, 4.2%

『東亜日報』『朝鮮日報』両新聞ともに労働者（労働運動）に関連する記事の比重が高いことがわかる。

文化項目

『東亜日報』276 件

教育 93 件, 33.7% スポーツ 84 件, 30.4% 社会動静 67 件, 24.3% 芸能 11 件, 4%

宗教 8 件, 2.9% 社会文化 6 件, 2.2% 文学 7 件, 2.5%

『朝鮮日報』186 件

社会動静 78 件, 41.9% 教育 45 件, 24.2% スポーツ 34 件, 18.3% 芸能 11 件, 5.9% 社会問題 10 件, 5.4% 宗教 4 件, 2.1% 文学 4 件, 2.0%

『東亜日報』『朝鮮日報』両新聞ともに教育関連, スポーツ関連, 宗教関連, 芸能関連, 文学関連の記事が多い。

とくに教育記事に関連して, 京都帝国大学に関係する記事が目立っており, 京都帝国大学総長・教授の動静や韓国人留学生（医学・理学）たちの博士学位授与事実などが報道されている。

2. 京都の文化（文学）関連記事の内容

先にも指摘したように、京都関連の記事では文化項目がもっとも高い61.1%と現れており、それは京都の都市的特性と表象が植民地韓国の新聞記事にも反映していると言えるだろう。今回の報告内容では文化領域の記事のなかで、主として文学¹¹⁾ 関連記事の内容を考察してみたため、植民地韓国における京都表象の一端の内容と意味を考察していく契機にしようと思う。

以下の京都の文学関連記事は、記事別に縮刷版新聞の内容を確認したのち、調査した内容である。また、比較のために大阪に関する文学記事は見出し語だけを表示した。

大阪に関する文学記事は、『東亜日報』が5件（文化記事総1,149件）、『朝鮮日報』が3件（文化記事総1,190件）であることと比較すると、京都の文学関連記事（『東亜日報』9件、『朝鮮日報』4件）の比重が高いことがわかる。

2-1. 大阪文学関連記事の内容

『東亜日報』5件

85 1921.7.2 4/9 李亀永¹²⁾、大阪にて/夜の雨（読者文壇） 韓国文学一詩

88 1921.8.1 4/3 大阪にて（読者文壇） 共園生

89 1921.8.1 4/3 紅園生、大阪にて（読者文壇） 韓国文学一詩

167 1933.3.2 4/8 おくつきの西行（第一号）：大阪弘川社発行 雑誌 懸賞募集・
当選発表

220 1935.2.5 3/0 近代人（二月号）：大阪市 近代人社 発行 雑誌
『朝鮮日報』3件

181. 図書館と書店で表現される朝鮮文化の程度。漢城図書株式会社に一年間販売された成績をみると、『愛の贈り物』という文芸が第一//小説と脚本が多数女子読書熱は六十対九、京城図書館の結果//思想書類第一好績、大阪オクホ書店では『クロボトキンの研究』『労農ロシア』がもっとも多く売れたと。（発行日）朝鮮日報 1923.12.25/ 夕刊 3面

483. 自我声 発刊。大阪朝鮮青年たちの日文雑誌で、今月中旬に発刊。（発行日）朝

11) 記事内容の分析対象を主として文学記事に限定したことは、この報告内容が仏教大学総合研究所「京都・近代文学」班の研究の一環だということを意識したものである。文学記事以外にも、文化一般の領域で、植民地時代の韓国と京都の接点において現在まで明らかにされてこなかった興味深い内容の記事が多く発見されている。今後の課題としたい。

12) 1901～1973。映画監督兼シナリオ作家。京城の培材学堂卒業後、20歳で映画の勉強のため渡日した。1923年帰国後は新聞に映画理論の紹介や映画評論を寄稿した。1923年、玄哲らと朝鮮俳優学校を設立し、脚本作業、演技論などを教え、1927年には映画『落花流水』を監督した。

鮮日報 1926.03.07/ 朝刊 2 面

493. 自我声創刊押収。大阪同胞によって去る二十日に発刊したものを。(発行日) 朝

鮮日報 1926.03.27/ 朝刊 2 面

3. 京都の文学関連記事内容詳細

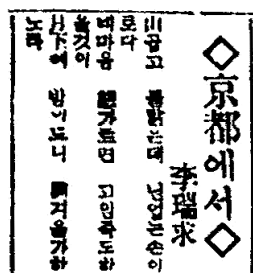
3-1. 『東亜日報』 5 件

115. 1923.9.2 京都にて 主題語 (李瑞求¹³⁾ = イ・ソグ)

116. 1923.9.2 李瑞求, 京都にて 主題語 (韓国文学, 時調)

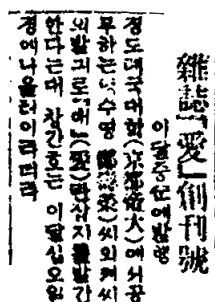
115, 116 は同一内容の記事

記事内容：京都で詠んだ李瑞求の時調一編が収められている。京都の山川のうつくしさを月夜に歌った内容の時調である。



129. 1923.12.6 愛 創刊号。京都帝大の鄭寿栄 (チョン・スヨン) 氏らの発起で今月中旬に発刊。主題語 (雑誌-愛)

記事内容：京都帝国大学で勉強している鄭寿栄氏ほかの発起により愛という雑誌を発刊するが、創刊号はこの月 15 日ごろだという。



13) 1899 ~ 1982. 劇作家・演出家。1920 年、『東亜日報』創刊とともに記者生活。1922 年、日本大学芸術科中退。1923 年、土月会同人として演劇運動。1925 年、京城放送局演芸主任を勤めながら劇作に専念。朝鮮演劇文化協会初代理事長。1949 年、韓国舞台芸術院長。韓国戦争以後、ラジオドラマとテレビ連続劇を発表。新派悲劇と歴史愛情劇を多く創作した。

- ・現在まで調査したところによれば、韓国文学史において同人誌『愛』と鄭寿栄氏に関する内容は未詳¹⁴⁾。

234. 1926.10.4 『ミューズ』(第3巻, 第1号) 京都アプロ社刊 主題語(雑誌)

- ・現在まで調査したところによれば、近代日本文学史で確認できていない¹⁵⁾。

519. 1931.7.2 最初の理学博士, 京都帝大, 助手の李泰圭氏

524. 1931.10.23 理学博士李泰圭氏京都帝大講師。将来を嘱望されている青年学者, 朝鮮人としては嚆矢

718. 1935.6.2 全アジア懸賞論文にわれわれの学生が3等に入選。京都同志社の李達実(イ・ダルシル)君 主題語(論説論文懸賞募集当選発表)

- ・現在まで調査したところによれば、具体的内容は確認されていない¹⁶⁾。

996. 1940.6.9 京都と一燈園(旅想) 主題語(朴勝極¹⁷⁾ = パク・スングク)

997. 1940.6.9 朴勝極 京都と一燈園 主題語(随筆・雑文)

996. 997. は同一内容の記事。



記事の内容は、朴勝極が京都の清水寺・東本願寺を訪問したあと、一燈園を見学した所感を記した文章である。とくに一燈園¹⁸⁾の懺悔と無所有奉仕生活などの原始共

14) 現在までの筆者の調査では不明。

15) 現在までの筆者の調査では不明。

16) 現在までの筆者の調査では不明。

17) 1909年, 京畿道水原生まれ。農家出身。1928年, 培材高校修了後に日本大学留学。思想問題により退学となり, 帰国。水原を主舞台として青年同盟, 農民組合, KAPF(朝鮮プロレタリアート芸術同盟), 新幹会などで活動。解放後, 水原郡人民委員会副会長。以後, 越北して文化宣伝省文学芸術部長などを歴任。実践運動(急進的思想運動)一評論, 小説創作活動一実践(左翼政治運動)の軌跡を見せる。重要作品としては『風塵』(1935), 『白骨』(1936)など。曹南鉉「朴勝極の実践, 批評, 小説」『韓国文化』25)などの文献を参照。

18) 一燈園は周知のとおり1904年(明治37)に西田天香によって創始された。現在, 財団法人懺悔奉仕光泉林となっている。

同体方式に共感を示している内容となっている。

3-2. 『朝鮮日報』 4 件

118. 雑誌『学潮』創刊。京都のウリ学友会機関誌として、来る4月1日発行。金哲鎮（キム・チョルジン）、郭鍾烈（クァク・ジョンヨル）、朴済璨（パク・ジェチャン）三君は発刊事務を帯びて入京するはず。1926.03.28

129. 「学潮」（創刊号） 京都留学生中心の学術雑誌 1926.07.13

・『学潮』: 1926 年（大正 15） 6 月 27 日に創刊号を発行し、1927 年（昭和 2）に第 2 号を最後に発行停止した。その理由は、第 2 号「白金の都市」編で、植民地都市の様子を慨嘆する詩と、世相批判的な感想文を掲載したためである。治安妨害（1927 年 7 月 13 日）で検閲にひっかった。発行地は京都市吉田帝大寄宿舍京都学友会。

京都学友会の性格は、次に示す機関誌『学潮』の創刊号と第 2 号の掲載内容から知ることができるように、労働者と連帯し彼らのために講演会を開くなど、プロレタリア運動の傾向をみせている。

『学潮』創刊号と第 2 号¹⁹⁾

1925 年 5 月から 1926 年 4 月までの本会に関する重要事項。

一、京都在朝鮮人労働総連盟で労働夜学を開設したさい講師派遣。

一、幹事選挙を行い、幹事は郭鍾烈、金末奉（キム・マルボン）、金哲鎮、李泰圭（イ・テギョ）のほか 12 人。

一、小樽高商軍教想定事件を討議した結果、京都・大阪・神戸に滞留するわが学友会、および労働各団体と連絡し、これに対抗することとする。ここに 11 月 6 日、この事件に対する批判演説を三條基督青年会館で開催。

「城大教授三宅鹿之助を中心とした鮮内赤化工作事件検挙に関する件」にわが学友会の記録が見える。

「編集余滴」には発行初期に、経済的な面などいろいろな困難があったが、それらを克服して雑誌発行がなされた事情を記している。量や数よりは質を選び、なるべく先

19) 主内容はソウル大学校図書館検索サイトで「学潮」を入力して現れた資料を整理・要約したものである。

輩・会員たちの発表を通してアカデミックな色彩をとろうとしたと明らかにしている。ジャンルとしては詩・童謡・喜劇・労働者問題・経済・生物・精神医学・社会科学など、学問の全分野に及んでいる。

創刊号第2号の目次

巻頭言

気質論／崔鉉培

経済価値の一考察（未定稿）／金哲鎮

女性解放運動の史的考察／鄭哲

生物学上から見た人類の将来／宋乙秀

東洋天文学の発達と占術の由来／文源柱

南唐李後主の詞／金九経

国家運動と社会運動／咸弼英

労働苦の本質とその理想化／郭鍾烈

カフェー・フランス／チョン

消えてしまった心の痕跡／チェチャン

短詩五章（旧稿）／蘆風

風のオーケストラほか三篇／曹沃鉉

笛を吹いた日／公花

「心の日記」から一時調九首／チョン

白金の都市／抱影

童謡／チョン

黄色い花（童謡）／金宗柱

喜劇「ぼろ着詩人の幻滅」一幕／キム・スサン

料理人の家の夜（一幕）／柳仁卓

神経病患者（創作）／ロココ

或画の話／山本宣治

唯物史観と芸術／住谷悦治

学友会記事

学芸部重要事記

編集余滴

目次中の執筆者中

- a) 崔鉉培（チェ・ヒョンベ）は代表的な第一世代の韓国語研究者である。

慶尚南道蔚山生まれ。1919年、広島高等師範学校文科卒業。1925年、京都帝国大学哲学科を卒業した。1926年～1938年、延禧専門学校教授。1942年10月、朝鮮語学会事件によって1945年8月15日（解放）まで3年間投獄された。1954年、延世大学校教授、学術院会員などを歴任した。

- b) チョンは、韓国近代詩文学に重要な位置を占めている詩人・鄭芝溶（チョン・チョン）である。同志社大学英文科を卒業し、梨花女子大学教授を歴任した。韓国戦争のとき拉北された。同志社大学時代に前衛的なモダニズムの試験性をみせる「カフェ フランス」を発表。以後、多くの詩を創作した。彼の詩の大部分は事物詩（physical poetry）であり、感覚的なイメージと土着語の活用、知性による感情の節制などがあらわれている。ほんとうの意味での韓国現代詩の出発点という評価もある。

彼の詩「早春の朝」（1926年3月）に、彼の下宿があった鴨川周辺のさびしい風景を描写する内容があり、上述した「カフェ フランス」でも京都の繁華街・四条通を連想させる描写が登場している。彼の詩には、日本体験、とくに京都での体験や京都の歴史美や文化認識、近代日本の風景としての京都という空間に対する関心などは登場しない。鄭芝溶は実際の空間と接触した体験よりは、内面から自身が投射した、創作した体験を詩と散文に作った。このような様相は、結論部分で言及する尹東柱（ユン・ドンジュ）の場合と同じである。植民地知識人としての自覚と苦悩が全面に登場していることを意味する²⁰⁾。

- c) 或画の話／山本宣治、唯物史観と芸術／住谷悦治 など日本人投稿者の文も見られる。

幹事の一人である李泰圭は、韓国を代表する化学者である。

忠清南道禮山生まれ。広島高等師範学校を終えて京都大学化学科を卒業し、1931年に京都大学から理学博士学位を受けた。その後、京都大学教授となり、1945年に帰

20) 金允植『青春の感覚、祖国の思想』（ソル、1999年）、シン・キョンホ『文学地理 韓国人の心象空間 国外篇』（ノンヒョン、2005年）などを参照。

国してソウル大学校教授をへて、1948年にアメリカに渡ってユタ大学化学科教授をつとめた。1971年、ユタ大学名誉教授。1973年、科学院碩学教授、韓国科学技術院名誉教授に推戴され、以後、韓国科学技術院で後進を養成した。1955年にノーベル化学賞候補にのぼった「粘性理論」が有名。500余編の論文を発表した。1992年没。李泰圭を取りまく韓国留学生たちの活動に関してはさらに多くの調査が必要だと思われる²¹⁾。

293. 獄中にて歌える歌集。太田遼一郎 斎藤英三集 京都共生閣発行 1930.03.17

新刊紹介	
◆新人間 (三月號) 一部七錢 發行所 京都府京都市中區 問津 銀鈴堂 一四五一三	◆獄中にて歌える歌集 大部五 一部 齋藤英三集 定價五十 錢 發行所 京都市河原町九太 上 京都共生閣 振替大坂八 一五九三
◆少年世界 (三月號) 一部 五錢 發行所 京都府京都市中區 少年世界社 振替京銀一八〇五	◆等差集 (三月號) 一部参錢 發行所 京都府京都市中區 發行所 青年會聯合會 青年雜誌 振替京銀一〇三八
◆國民法律 (三月號) 定價十五 錢 發行所 京都市芝田二木復一 ノ四七 振替東京一六七六六	◆午夜月 宇宙星者 定價六十錢 發行所 京都市小石川 西九町 二八六 東洋出版部

太田遼一郎は周知の通り昭和時代の社会運動家である。明治38年2月13日生まれ。京都帝大でまなび、労働・農民運動にくわわる。昭和3年共産党に入党し、三・一五事件で検挙される。戦後、農林省農業総合研究所九州支所長、熊本商大教授などをつとめた。²²⁾

以上の京都関連文化（文学）記事に現れた韓国知識人は主に社会主義系列の留学生であり、彼らと交流した京都の日本人知識人の記事が多く登場していることがわかる。

21) 東亜日報にも李泰圭に関する次のような記事が掲載されている。

519. 1931.7.2 最初の理学博士、京都帝大、助手の李泰圭氏

524. 1931.10.23 理学博士李泰圭氏京都帝大講師。将来を嘱望されている青年学者、朝鮮人としては嚆矢

22) 『日本人名大辞典』（講談社）を参照。

4. 複数分類の内容

新聞社		東亜日報 (全体 621 件) (年度：1920.5.13 ～ 1940.7.09)	朝鮮日報 (全体 470 件) (年度：1920.8.07 ～ 1940.7.15)		
分類 (複数)					
政治 / 文化 約 9.2%	政治 / 社会動静 政治 / 社会問題 独立運動 / 社会動静 思想 / 教育等	57 (約 44.1%)	政治 / 文化 約 11.7%	政治 / 社会動静 政治 / 社会問題 独立運動 / 社会動静 思想 / 教育等	55 (約 42.3%)
事件 / 文化 約 3.5%	逮捕 / 教育 天災 / 社会動静 逮捕 / 社会問題等	22 (約 17.1%)	事件 / 文化 約 4.5%	逮捕 / 教育 天災 / 社会動静 逮捕 / 社会問題等	21 (約 16.2%)
事件 / 政治 約 3.5%	商業 / 社会動静 労働 / 社会動静 労働 / 教育等	22 (約 17.1%)	事件 / 政治 約 4.3%	商業 / 社会動静 労働 / 社会動静 労働 / 教育等	20 (約 15.4%)
経済 / 文化 約 2.1%	人身事故 / 政府 逮捕 / 思想 逮捕 / 独立運動等	13 (約 10.1%)	経済 / 文化 約 4%	人身事故 / 政府 逮捕 / 思想 逮捕 / 独立運動等	19 (約 14.6%)
政治 / 経済 約 0.8%	政府 / 労働 政府 / 商業 思想 / 労働等	5 (約 3.9%)	事件 / 政治 / 文化 約 1.7%	逮捕 / 思想 / 教育等	8 (約 6.2%)
事件 / 政治 / 文化 約 0.8%	逮捕 / 思想 / 教育等	5 (約 3.9%)	政治 / 経済 約 0.9%	政府 / 労働 政府 / 商業 思想 / 労働等	4 (約 3.2%)
政治 / 経済 / 文化 約 0.5%	政治 / 商業 / 社会問題等	3 (約 2.2%)	政治 / 経済 / 文化 約 0.2%	政治 / 商業 / 社会問題等	1 (約 0.7%)
事件 / 経済 約 0.3%	逮捕 / 労働等	2 (約 1.6%)	事件 / 経済 約 0.2%	逮捕 / 労働等	1 (約 0.7%)
事件 / 経済 / 文化 0%	労働 / 教育 / 社会問題等	0 (計 100%)	事件 / 経済 / 文化 約 0.2%	労働 / 教育 / 社会問題等	1 (約 0.7%) (計 100%)
計 129/621 約 20.7%			計 130/470 約 27.7%		

以上、一瞥すると分かるように、『東亜日報』『朝鮮日報』の政治 / 文化など 9 の領域で、独立運動、労働運動、思想問題、社会動静など、京都大学、京都の知識人、日本人労働者との連帯などの内容が中心をしめている。

IV まとめを兼ねて

1. 前述したⅡ 『東亜日報』『朝鮮日報』記事（東京・大阪・京都）の資料データベース化および分類で提示したように、単一分類（4 領域）、複数分類（10 領域）を総合した統計で、京都は文化領域の構成比率が 61.1%（大阪 42.5%，東京 26.6%）と

現れている。

歴史文化都市としての京都のアイデンティティを勘案すると、ある程度予測可能だった数値ともいえるが、植民地朝鮮の現実の中で発行されている新聞の報道内容で、京都の文化領域の記事数値が東京・大阪を大きく上回っていることは、注目に値する。

2. 京都に関する文化領域の記事内容は、単純分類の場合、教育、スポーツ、宗教、芸能、文学に関連した記事が中心を占めており、複数分類の場合、独立運動、労働運動、思想問題、社会動静などに関する記事が中心を占めていて、この記事の大部分は京都大学と京都大学の教授に関連した記事、京都における日本人知識人と朝鮮人留学生の記事、社会主義運動、労働運動に関連した記事である。

特に京都帝大の記事内容を見ると、

『東亜日報』総記事件数 621 件中 86 件

『朝鮮日報』総記事件数 470 件中 50 件

であり、京都全体の記事の中で相当な比重（12.4%）を占めている。京都帝大総長や教授の韓国訪問、あるいは総督府との関連記事、京都帝大韓国留学生の活動、社会問題と関連した事件などが中心となっている。その一部を例示すると以下の通りである。

29. 1921.4.1 政務総監 京都大学教授文学博士原勝郎氏を主賓として晩餐会

208. 1925.12.3 京都帝大生 40 名を拘引、証拠書類百余冊押収、某秘密結社陰謀事件で京都検事局活動

313. 1928.4.18 京都帝国大学法、経两部臨時休学発表。当局の態度強硬。河上肇辞表

580. 1933.5.7 京都帝大三教授に名誉教授の称号、新城新蔵、松本均、青柳宮司

582. 1933.5.16 京都帝大滝川幸辰教授問題、教授会声明

京都帝大に関連する記事の大部分に現れている傾向としては、京都帝国大学に象徴される日本知性の世界と帝国日本体制との葛藤に関する関心表明、とくに植民地の現実と関連して経済、労働、ヒューマニズム、民族解放、社会主義など、思想の問題などについての関心と心情的同意感の表出などをあげることができる。

韓国の新聞（知識人）の京都という知識人社会空間に対する関心の一端を把握することができる。

3. 京都の文学関連記事（『東亜日報』7件、『朝鮮日報』4件）中に登場する韓日の文人（知識人）は次のとおりである。

『東亜日報』

李瑞求（劇作家）、鄭寿栄（未詳、雑誌『愛』）、李達実（未詳）、朴勝極（作家）

『朝鮮日報』

雑誌『学潮』関連の多数の文人と知識人（鄭芝溶、山本宣治、李泰圭など）

太田遼一郎、斎藤英三、池ノ内三雄など。

留学生の中には、韓国近代文学史やその他の分野で名を残している韓国知識人たちが多数登場しており、鄭寿栄、李達実らに関しては、発表者の調査では明らかにすることができなかった。

とくに、雑誌『学潮』に関連する知識人のうち、先に言及した崔鉉培、鄭芝溶に関しては多くの研究がなされているが、その他の人物に関しては明らかにされていることがほとんど無い。これまで、韓国の近代文学専攻者によって日本に留学した作家についての研究が相当部分なされたが、おもに東京の東京帝国大学、早稲田大学、慶応大学の留学生であり、京都への留学生に関する研究は尹東柱、鄭芝溶のほかにはほとんど無い。

上記『学潮』の投稿者目録に山本宣治、住谷悦治らの名が見えているが、京都という空間内でなされた韓国人留学生と、彼ら日本人知識人との知的交流状況も、まだ明らかにされていないが、これに関する調査も今後の課題となっている。

太田遼一郎、斎藤英三、池ノ内三雄の3人に関する『朝鮮日報』の報道は、『朝鮮日報』が1920年代以後、民族主義的で中道左翼的な記者たちが多かった事実とは無関係ではないとみられる。京都の知識人社会の知的風土と韓国人留学生との関連様相という主題も、興味深い課題だと思われる。

4. 『東亜日報』の歴史・文学などの記事に関するさらに掘り下げた調査を通して、反日・親日の問題についての新しい視角を示すことができるものと判断される。すなわち、反日・親日という二分法的な視角を離れ、中間地域に存在する京都留学韓国知識人の京都との出会いを、追跡・分析する必要性が提起された。以下の記事はその点について多くの示唆を与えている。

157. 1924.8.1 李完用²³⁾の孫・李丙喜, 不良少年たちと組んで歩き回っていたが, 京都で警察犯処罰令により立件されたが, 祖父の徳により特別に放免。祖父の信用に関係することなので, 世上に噂にならないように監督者を送るよう交渉。

膨大な分量の首都東京の記事と比べると, 京都に関する報道記事の相当部分で, 植民地の現実と関連して, 経済, 労働, ヒューマニズム, 民族解放, 社会主義などの事項の問題などに対する関心と心情的同意感が出出されており, この点においては京都帝国大学関連記事と類似性を帯びている。

5. 尹東柱と京都, 植民地時期日本留学生というキーワードをとおして, つぎのような新たな研究の可能性を開くことができると見られる。

1917年に満州の間島で生まれる。キリスト教信者の家庭。1934年, 18歳のときに3編の詩を創作(「生と死」など)。1939年, 『東亜日報』新春文芸にコント「さじ」が当選。以後, 各種の新聞・雑誌などに詩を投稿する。1938年, 延禧専門(現, 延世大学)に入学。1941年, 延禧専門を卒業して, 日本に留学するため平沼と創氏改名する。1942年4月, 立教大学英文科に入学後, 10月に同志社大学英文科に入学。京都市左京区田中高原町27 武田アパートで下宿生活を送る。1943年7月, 独立運動の嫌疑で逮捕される。1944年, 28歳で治安維持法第5条違反(独立運動罪)により懲役2年の言い渡しを受ける。1945年2月29日, 獄中で死亡²⁴⁾。

以上は, 植民地期の代表的抵抗詩人である尹東柱の短く熾烈だった生の軌跡である。1942年に同志社大学に入学し, 1943年に独立運動罪で逮捕された尹東柱の記事は, 『東亜日報』『朝鮮日報』両紙がすでに1940年に強制廃刊されたため, 探すことはできない。先の鄭芝溶の場合も同様だが, 尹東柱の詩の世界には, 奪われた祖国への想い, 植民地の現実の中で苦悩する詩人の叙情的自我の表出が中心基調をなしており, 京都の歴史美と近代日本の風景を観賞する情緒的余裕を期待することは, 無理な要求のようである。民族を代弁する抵抗詩人としての尹東柱の詩は, すでに研究され

23) 1858～1926。朝鮮王朝末期から日本植民地時代の親日政治家。1882年に科挙の文科試験に合格, 主に外交畑を歩んで外部(外務)大臣などを歴任した。1905年の第2次日韓協約(外交権の喪失)に賛成し, 1907年には総理大臣となり第3次日韓協約(内政権の喪失)成立に協力し, 1910年の日韓併合条約に韓国側代表として調印した。日韓併合後は朝鮮総督府中枢院副議長などを勤め, 日本への協力の功績により伯爵ついで侯爵に列せられた。韓国では代表的な親日派人物とされる。

24) 『尹東柱自筆詩稿全集 尹東柱年譜』(1999年, 民音社)

ているように、それ自体偉大な芸術作品だが、尹東柱・鄭芝溶のようなわずか数名の文人の作品で、この時代をすべて説明することはできないことは当然である。反日と親日という二分法的視角だけで、当時の知識人の生の軌跡を完全に把握することはできないと思われる。

彼のような植民地期の抵抗詩人たちに関する研究の次段階として、先の新聞資料などに現れている多くの留学生、すなわち、植民地期に京都という歴史文化的空間の中で、京都の大学社会・知識人社会と交流しながら、民族、独立、抵抗、差別構造、植民地の現実のような時代状況を、当面の現実として受け入れ内面化させて留学生生活を送った、普通の知識人の作品と生に関する資料の調査が必要だと判断され、それは、東京留学生を中心とした植民地時期日本留学生に関する研究の補完となるであろうし、「京都と日本の近代文学」という主題の中でも論議できるだろう。これからの課題としたいと思う。

このような作業は、同時に、植民地期韓国知識人の生の方式を区分する「反日と親日の論理」「親日文学論争」のような単純な二分法的思考の領域だけでは把握できない、植民地時期韓国知識人の生の空間に関する新しい接近となるだろうということが、今回、植民地時期 20 余年間の『東亜日報』『朝鮮日報』の京都関連記事をデータベース化しながら得た、発表者の中間報告内容の結論である。

(チョン ヒョン ゲストスピーカー)